

学位論文審査実施要領

大阪公立大学大学院
獣医学研究科
2022年4月1日

目次

A. 課程博士	
1. 学位授与申請.....	2
1-1申請資格	
1-2申請手続	
1-3申請期限	
1-4公表手続	
2. 学位授与の審査.....	4
2-1審査に至る手続と審査	
2-2学位論文審査委員会の任務	
3. 学位授与の審議.....	5
4. 学位の授与.....	5
B. 論文博士	
1. 学位授与申請.....	6
1-1申請資格	
1-2申請手続	
1-3審査料	
1-4申請	
1-5公表手続	
2. 学位授与の審査.....	8
2-1審査に至る手続と審査	
2-2学位論文審査委員会の任務	
3. 学位授与の審議.....	9
4. 学位の授与.....	10
補則・附則.....	10

学位論文審査実施要領

A. 課程博士（学位規程第3条第2項）

1. 学位授与申請

1-1 申請資格

学位授与を申請できる者の資格は次のとおりとする。

資格1 本学大学院獣医学研究科博士課程（以下「博士課程」という。）に在学中の者のうち、学位論文審査終了時まで、博士課程の在学期間が4年に達し、かつ、所定の単位を修得する見込みであることが申請しようとする者の研究指導教員により認められた者。（学位規程第5条第2項に該当）

資格2 博士課程に在学中で、在学期間が4年を超える者のうち、既に所定の単位を修得した者、または学位論文審査終了時まで、所定の単位を修得する見込みであることが申請しようとする者の研究指導教員により認められた者。（学位規程第5条第2項に該当）

資格3 博士課程に在学中で、学位論文審査終了時まで、博士課程の在学期間が合わせて3年以上経過し、かつ、所定の単位を修得する見込みであることが申請しようとする者の研究指導教員により認められ、獣医学研究科教授会（以下「研究科教授会」という。）において、大学院学則第33条第1項ただし書きにおける特例として認められた者。（学位規程第5条第2項に該当）

資格4 博士課程に4年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者のうち、退学後1年以内に学位論文の審査が終了する見込みであることが研究科教授会において認められた者。（大学院学則第36条第2項および学位規程第5条第3項に該当）

◎ 資格3の申請者は、資格審査委員会で学位授与申請資格を認定されたのち、申請手続をすること。

◎ 資格4の申請者は、退学願提出時に単位修得退学に伴う学位授与申請資格認定願（様式第6号）をりんくうキャンパス事務所まで提出し、退学前に研究科教授会にて学位授与申請資格を認定されたうえで、退学後に申請手続をすること。

1-2 申請手続

学位授与を申請する者は、あらかじめ研究指導教員（論文を直接指導した教員）から、申請を行うことについて承認を得たのち、次の書類等を獣医学研究科長（以下「研究科長」という。）に提出し、学長に申請する。この場合、申請の承認を求められた研究指導教員は、所属の教授（研究科長）[関連のある他研究科の教授（研究科長）を含む場合がある]と協議して、承認の可否を決定する。

申請者は下記の書類等をりんくうキャンパス事務所に提出すること。

(i) 学位授与申請書 1部

申請資格1、2、3の該当者：様式第1号その1

申請資格4の該当者：様式第1号その2

(ii) 学位論文冊子体 3部

A4判縦置き横書きを原則とする。

(iii) 学位論文および論文要旨の電子ファイル 1部

A4判横書きにより印刷することを前提とした電子データをPDFファイルとして保存したCD-R等の電子媒体

(iv) 学術情報リポジトリへの博士学位論文登録申請書（様式1） 1部

(v) 学位論文表紙の写し 1部

（論文と各種書類の申請者氏名と論文題目の統一を図るために使用）

(vi) 論文要旨 30部

横書き 4,000字以内（英文の場合、1,500語程度以内）を、A4用紙3枚以内に印刷したもの

(なお、論文要旨作成には、「論文要旨の標準的な書式設定」を参照のこと)

(vii) 論文目録(様式第 2 号) 1 部

「論文目録」の参考論文の欄には、本論文の参考となる論文を添付して提出する場合のみ記載すること。

(viii) 履歴書(様式第 3 号) 1 部

(ix) 申請者紹介(様式第 4 号) 1 部

a 学位論文の題目が外国語の場合は和訳文を付記すること。

b 学位論文の基礎となっている専門学術誌に掲載された論文があるときは一覧表を記載する。なお、この一覧表には掲載決定のものも記載することができる。

(提出書類等一覧)

	学位 申請書	論文 冊子体	電子 データ	登録 申請書	表紙 写し	要旨	論文 目録	履歴書	申請者 紹介書
必要数	1	3	1	1	1	※	1	1	1

※必要数は事務所に確認。

その他に以下の提出書類等が必要な場合がある。

(x) 承諾書(様式第 5 号)

(ix) b において、専門学術誌に掲載された論文に共著者があり、それを学位論文として使用するに際し承諾を必要とする場合。

(xi) 単位修得退学に伴う学位授与申請資格認定願(様式第 6 号)

申請資格 4 に該当する場合。

(xii) 単位修得証明書 1 部

申請資格 4 に該当する場合。

1-3 申請期限

申請資格 1、3 に該当し、かつ 3 月及び 9 月に修了を希望する者にあつては、それぞれ 1 月 10 日及び 7 月 10 日 (その日が土・日・祝日にあたる場合は、前日または前週の金曜日)、それ以外の者は随時。申請資格 4 に該当する場合は、退学願提出時に「単位修得退学に伴う学位授与申請資格認定願」(様式第 6 号)をりんくうキャンパス事務所に提出すること。

1-4 公表手続

学位を授与された者は、1 年以内に学位論文の全文をインターネットを介して公表する義務があり(本学学位規程第 17 条第 2 項による)、本学の学術情報リポジトリ(以下「リポジトリ」という。)に登録してこれを行うこととする。ただし学位論文全文をインターネットを介して公表できない「やむを得ない事由」がある場合は、以下の所定の手続きをとり、全文に代えて論文要旨とは別に要約を公表することができる。

(i) 次の手続きにより「学位論文全文に代えて要約を公表することの承認通知書」の交付を受けること。

① 学位論文全文をリポジトリで公表できないやむを得ない事由があり、その事由が解消される見込みがないか、解消されるのに 1 年以上(注)かかることが見込まれる場合は、「学位論文全文に代えて要約を公表することの申立書」(様式 2)を研究科に提出する。

② この申立について研究科教授会において審査し、「やむを得ない事由」があると認められた場合は、学長に報告する。

③ 学長は「学位論文全文に代えて要約を公表することの承認通知書」(様式 3)を学位取得者に交付する。

④ 前項の交付は、学位を授与された日から 1 年後の 1 月前までに行うものとする(本学学位論文の公表に関する取扱要領による)。

注1 年以内に解消される見込みが、事情により1年以上かかることになった場合は、学位授与後11ヶ月目までに同じ手続きが必要

- (ii) 「1-2 申請手続き」における、提出書類等 (ii) 学位論文冊子体 (3部) のうち2部は、国立国会図書館と本学図書館で保管と閲覧に供するため、長期保存に耐える方式により印刷製本し、大阪公立大学審査学位論文と明記したものを提出すること。
- (iii) 「1-2 申請手続き」における、提出書類等 (iii) 電子データは学位論文の全文及び要約のPDFファイルを提出すること。
- (iv) 学位論文の要約公表が認められる期間は、立体形状、著作権、個人情報又は共同研究に係る制約がある場合を除き、学位授与日から5年以内とする。期間を過ぎても全文を公表できない場合は、改めて学位取得者又は研究指導教員が「学位論文全文に代えて要約を公表することの申立書」(様式2)を研究科に提出し、承認を得なければならない。
- (v) 前項の手続きが行われない場合や、研究科の承認が得られなかった場合は、期限を過ぎた時点で、全文を公表する。
- (vi) 要約公表の事由が解消し論文全文の公表が完了した場合、提出された学位論文の冊子体は本学図書館の運用に準ずる。

「やむを得ない事由」とは、「学位論文の公表に関する取扱要領」第7条による。

第4条第1項に規定する「やむを得ない事由」は次のとおりとする。

- (1) インターネット公表ができない内容を含む場合
 - a. 当該論文に立体形状による表現を含む場合
 - b. 著作権や個人情報に係る制約がある場合
 - c. 共同研究者等が非公表と定めている事項を含む場合
 - (2) インターネットによる公表により明らかな不利益が発生する場合
 - a. 出版刊行をしている、もしくは予定されている場合
 - b. 学術雑誌に掲載されている、もしくは予定されている場合
 - c. 特許の申請がある、もしくは予定されている場合
 - (3) その他
研究科が特に「やむを得ない事由」があると認めた場合
- 2 「やむを得ない事由」が解消された場合には、リポジトリにより論文本文の公表を要する。

2. 学位授与の審査

学位授与の申請が受理されたとき、研究科教授会は次の順序により審査する。

2-1 審査に至る手続と審査

- (1) 研究指導教員は学位授与の申請を承認したとき、その旨を所属研究科の「研究科長」に通知する。また、研究指導教員は申請手続について申請者と話し合うことが望ましい。
- (2) 学位授与の申請を受けた研究科長は調整を行った上、研究科教授会において次の項目を提示し審議・決定する。
 - (i) 申請者の紹介
 - (ii) 審査委員会(主査1名・副査2名以上)の設置
審査委員会は本研究科の教授3名以上の審査委員をもって組織する。ただし、研究科教授会において特に認める場合は、本研究科の准教授を1名に限り審査委員に充てることができる。なお、研究科教授会において必要と認める場合は、次の各号に掲げる者を加えることができる。
 - 一. 本研究科の准教授及び講師
 - 二. 他の研究科の教授
 - 三. 他の大学院の教授
 - 四. 研究所等の教員等

審査委員会の主査は本研究科の教授が担当する。ただし、必要と認める場合は、本研究科の准教授を主査に充てることができる。また、主査は研究指導教員と異なる教員を充てることとする。なお、やむを得ず研究指導教員が主査として審査を行う場合は、当該分野の特殊性等その妥当性を説明し、審査の客観性・厳格性を確保する。

(iii) 論文発表会開催予定日

(3) 論文発表会

発表会は公開し、要旨を配付する。また、発表会開催日の5日前までに申請者名、論文題目、日時、場所等を公示する。

(4) 最終試験の実施

最終試験は、学位論文を中心として、これに関連のある科目について口述または筆記により行う。

(5) 審査会議

発表会直後に、審査委員会委員及び本研究科の教授からなる会議を開催し、可否を検討する。

2-2 学位論文審査委員会の任務

学位論文審査委員会の主たる任務は次のとおりである。

- (1) 学位論文の審査
- (2) 発表会の開催
- (3) 最終試験の実施
- (4) 学位論文審査結果の報告

学位論文の審査及び最終試験を終了したときは、

- (i) 学位論文の内容の要旨
- (ii) 審査結果の要旨
- (iii) 最終試験結果の要旨
- (iv) 審査委員会の所見

を記載した論文審査報告書を作成する(A4判2,000字以内、30部)。

また、この報告は学位授与の申請が受理された日から、1年以内に行わなければならない。

なお、可否投票後、論文要旨及び論文審査報告書をワードで作成し保存したCD-R等の電子媒体を提出する。

3. 学位授与の審議

学位授与の審議は、研究科教授会において次の方法により行う。

(1) 論文審査報告書の配付

研究科長は、研究科教授会の開催1週間前までに論文審査報告書を全教授に配付する。

(2) 研究科教授会

研究科教授会は次の2項目について学位授与の可否を審議・決定する。

(i) 審査結果の報告

学位論文審査委員会主査が、学位論文の要旨、学位論文審査の結果、最終試験結果及び審査委員会の所見について、論文審査報告書の記載どおりである旨を報告する(但し、内容の朗読は必要としない)。

(ii) 可否投票

前項の学位論文審査委員会主査の報告にもとづいて審議を行い、学位授与の可否を無記名投票によって議決する。

4. 学位の授与

◎申請資格 1、3 に該当する者。

3 月修了 学位授与日：3 月 31 日

学位記授与式：3 月 24 日

9 月修了 学位授与日：9 月 23 日

学位記授与式：9 月下旬(授与式の日時については別途通知)

◎申請資格 2 に該当する者。

3 月修了 学位授与日：3 月 31 日

学位記授与式：3 月 24 日

9 月修了 学位授与日：9 月 23 日

学位記授与式：9 月下旬(授与式の日時については別途通知)

上記以外 学位授与日：決定日（研究科教授会）に近い学期末、6 月末日、12 月末日

例： 5 月 24 日研究科教授会 6 月 30 日

8 月 24 日研究科教授会 9 月 23 日

学位記授与式：3 月 24 日、9 月下旬(授与式の日時については別途通知)

◎申請資格 4 に該当する者。

学位授与日：決定日（研究科教授会）に近い学期末、6 月末日、12 月末日

学位記授与式：3 月 24 日、9 月下旬(授与式の日時については別途通知)

B. 論文博士（学位規程第 3 条第 3 項）

1. 学位授与申請

1-1 申請資格（いずれも学位規程第 5 条第 4 項に該当）

学位授与を申請できる者の資格は次のとおりとする。

資格 1 博士課程獣医学専攻及び旧制度の博士課程獣医学専攻に所定の年数以上在学し、所定の単位を修得して退学した者。

資格 2 修業年限 6 年の獣医学を履修する課程を卒業または修士課程あるいは博士前期課程修了後 5 年以上の研究歴を有する者。

資格 3 修業年限 4 年の大学の課程を卒業後 7 年以上の研究歴を有する者。

資格 4 短期大学または旧制専門学校卒業後 11 年以上の研究歴を有する者。

資格 5 上記と同等以上の学力と研究歴を有することが研究科教授会で認められた者。

◎学位授与を申請する者は、学位の種類を指定して、学長に提出するものとする。

◎資格 5 の申請者は、資格審査委員会で学位授与申請資格を認定されたのち申請手続をすること。

1-2 申請手続

学位授与を申請する者は、あらかじめ論文審査を担当する予定の教員（以下「審査担当予定教員」という）の承認を得たのち、次の書類等を研究科長に提出し、学長に申請する。この場合、申請の承認を求められた審査担当予定教員は、所属する研究科の教授（研究科長）または関連のある研究科の教授（研究科長）と協議して、承認の可否を決定する。

申請者は下記の書類等をりんくうキャンパス事務所に提出すること。

(i) 学位授与申請書（様式第 1 号その 3） 1 部

(ii) 学位論文冊子体 3 部

A4 判縦置き横書きを原則とする。

(iii) 学位論文および論文要旨の電子ファイル 1 部

A4 判横書きにより印刷することを前提とした電子データを PDF ファイルとして保存した CD-R 等の電子媒体

(iv) 学術情報リポジトリへの博士学位論文登録申請書（様式 1） 1 部

(v) 学位論文表紙の写し 1 部

(論文と各種書類の申請者氏名と論文題目の統一を図るために使用)

(vi) 論文要旨 30部

横書き 4,000字以内(英文の場合、1,500語程度以内)を、A4用紙3枚以内に印刷したもの(なお、論文要旨作成には、「論文要旨の標準的な書式設定」を参照のこと)

(vii) 論文目録(様式第2号) 1部

「論文目録」の参考論文の欄には、本論文の参考となる論文を添付して提出する場合のみ記載すること。

(viii) 履歴書(様式第3号) 1部

(ix) 申請者紹介(様式第4号) 1部

a 学位論文の題目が外国語の場合は和訳文を付記すること。

b 学位論文の基礎となっている専門学術誌に掲載された論文があるときは備考欄に一覧表を記載する。なお、この一覧表には掲載決定のものも記載することができる。

(提出書類等一覧)

	学位 申請書	論文 冊子体	電子 データ	登録 申請書	表紙 写し	要旨	論文 目録	履歴書	申請者 紹介書
必要 数	1	3	1	1	1	※	1	1	1

※必要数は事務所に確認。

その他に以下の提出書類等が必要な場合がある。

(x) 承諾書(様式第5号)

(ix) bにおいて、専門学術誌に掲載された論文に共著者があり、それを学位論文として使用するに際し承諾を必要とする場合。

(xi) 単位修得証明書 1部

学位規程第10条第2項該当者(博士課程の単位修得退学者のうち、退学後3年以内に申請する者)及び本研究科または大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻の博士課程を単位修得退学した者。

1-3 審査料

上記提出書類とともに所定の審査料を納めること。

1-4 申請

申請は随時行うことができる。詳細は指導教員と相談のうえ、りんくうキャンパス事務所に問い合わせること。

1-5 公表手続

学位を授与された者は、1年以内に学位論文の全文をインターネットを介して公表する義務があり(本学学位規程第17条第2項による)、本学の学術情報リポジトリ(以下「リポジトリ」という。)に登録してこれを行うこととする。ただし学位論文全文をインターネットを介して公表できない「やむを得ない事由」がある場合は、以下の所定の手続きをとり、全文に代えて論文要旨とは別に要約を公表することができる。

(i) 次の手続きにより「学位論文全文に代えて要約を公表することの承認通知書」の交付を受けること。

① 学位論文全文をリポジトリで公表できないやむを得ない事由があり、その事由が解消される見込みがないか、解消されるのに1年以上(注)かかることが見込まれる場合は、「学位論文全文に代えて要約を公表することの申立書」(様式2)を研究科に提出する。

② この申立について研究科教授会において審査し、「やむを得ない事由」があると認められた場合は、学長に報告する。

- ③ 学長は「学位論文全文に代えて要約を公表することの承認通知書」（様式 3）を学位取得者に交付する。
- ④ 前項の交付は、学位を授与された日から 1 年後の 1 月前までに行うものとする（本学学位論文の公表に関する取扱要領による）。
- ^注1 年以内に解消される見込みが、事情により 1 年以上かかることになった場合は、学位授与後 11 ヶ月目までに同じ手続きが必要
- (ii) 「1-2 申請手続き」における、提出書類等 (ii) 学位論文冊子体 (3 部) のうち 2 部は、国立国会図書館と本学図書館で保管と閲覧に供するため、長期保存に耐える方式により印刷製本し、大阪公立大学審査学位論文と明記したものを提出すること。
- (iii) 「1-2 申請手続き」における、提出書類等 (iii) 電子データは学位論文の全文及び要約の PDF ファイルを提出すること。
- (iv) 学位論文の要約公表が認められる期間は、立体形状、著作権、個人情報又は共同研究に係る制約がある場合を除き、学位授与日から 5 年以内とする。期間を過ぎても全文を公表できない場合は、改めて学位取得者又は研究指導教員が「学位論文全文に代えて要約を公表することの申立書」（様式 2）を研究科に提出し、承認を得なければならない。
- (v) 前項の手続きが行われない場合や、研究科の承認が得られなかった場合は、期限を過ぎた時点で、全文を公表する。
- (vi) 要約公表の事由が解消し論文全文の公表が完了した場合、提出された学位論文の冊子体は本学図書館の運用に準ずる。

「やむを得ない事由」とは、「学位論文の公表に関する取扱要領」第 7 条による。

第 4 条第 1 項に規定する「やむを得ない事由」は次のとおりとする。

- (1) インターネット公表ができない内容を含む場合
 - a. 当該論文に立体形状による表現を含む場合
 - b. 著作権や個人情報に係る制約がある場合
 - c. 共同研究者等が非公表と定めている事項を含む場合
- (2) インターネットによる公表により明らかな不利益が発生する場合
 - a. 出版刊行をしている、もしくは予定されている場合
 - b. 学術雑誌に掲載されている、もしくは予定されている場合
 - c. 特許の申請がある、もしくは予定されている場合
- (3) その他
 研究科が特に「やむを得ない事由」があると認めた場合
 2 「やむを得ない事由」が解消された場合には、リポジトリにより論文本文の公表を要する。

2. 学位授与の審査

学位授与の申請が受理されたとき、研究科教授会は次の順序により審査する。

2-1 審査に至る手続と審査

- (1) 審査担当予定教員は学位授与の申請を承認したとき、その旨を所属研究科の「研究科長」に通知する。
 「研究科長」は同研究科内の教員とあらかじめ (2) に掲げられた事項を協議しておく。
- (2) 学位授与の申請を受けた研究科長は研究科教授会において調整を行った上、研究科教授会において次の項目を提示し審議・決定する。
 - (i) 申請者の紹介
 - (ii) 審査委員会（主査 1 名・副査 2 名以上）の設置
 審査委員会は本研究科の教授 3 名以上の審査委員をもって組織する。ただし、研究科教授会において特に認める場合は、本研究科の准教授を 1 名に限り審査委員に充てること

ができる。

なお、研究科教授会において必要と認める場合は、次の各号に掲げる者を加えることができる。

- 一．本研究科の准教授及び講師
- 二．他の研究科の教授
- 三．他の大学院の教授
- 四．研究所等の教員等

審査委員会の主査は本研究科の教授が担当する。ただし、必要と認める場合は、本研究科の准教授を主査に充てることができる。

(iii) 学力確認

確認方法については別記。

(iv) 論文発表会開催予定日

(3) 学力確認の実施

学力確認のための試験は、英語及び専門科目 2～3 科目以上（学位論文を中心としてこれに関連あるもの）について行うものとする。

- (i) 博士課程に 4 年以上在学し、所定の単位を修得した者が、退学後 3 年以内に論文博士の学位の授与を申請した場合は学力の確認を省略することができる。
- (ii) 本研究科博士課程または大阪府立大学大学院生命環境科学研究科博士課程獣医学専攻に 4 年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者については、学力確認のための試験の一部を免除することができる。
- (iii) 短期大学または旧制専門学校卒業者及びその他の者については、専門基礎学科学目（数学、物理学、化学、生物学等）を加えることがある。

(4) 論文発表会

発表会は公開し、要旨を配付する。また、発表会開催日の 5 日前までに申請者名、論文題目、日時、場所等を公示する。

(5) 審査会議

発表会直後に、審査委員会委員及び当該研究科の教授からなる会議を開催し、合否を検討する。

2-2 学位論文審査委員会の任務

学位論文審査委員会の主たる任務は次のとおりである。

- (1) 学位論文の審査
- (2) 発表会の開催
- (3) 学力確認試験の実施
- (4) 学位論文審査結果及び学力確認結果の報告

学位論文の審査を終了したときは、

- (i) 学位論文の内容の要旨
- (ii) 審査結果の要旨
- (iii) 審査委員会の所見

を記載した論文審査報告書（A4 判 2,000 字以内、30 部）を作成し、学力確認試験を終了したときは、学力確認結果報告書（様式第 7 号）を作成する。

また、これらの報告は学位授与の申請が受理された日から、1 年以内に行わなければならない。なお、可否投票後、論文要旨及び論文審査報告書をワードで作成し保存した CD-R 等の電子媒体を提出する。

3. 学位授与の審議

学位授与の審議は、研究科教授会において次の方法により行う。

(1) 論文審査報告書の配付

研究科長は、研究科教授会の開催1週間前までに論文審査報告書を全教授に配付する。

(2) 研究科教授会

研究科教授会は次の3項目について学位授与の可否を審議・決定する。

(i) 論文の審査結果の報告

学位論文審査委員会主査が、学位論文の要旨、学位論文審査の結果及び審査委員会の所見について、論文審査報告書の記載どおりである旨を報告する（但し、内容の朗読は必要としない）。

(ii) 学力確認

学位論文審査委員会主査が論文審査報告と併せて学力確認の結果を報告する（但し、内容の朗読は必要としない）。

(iii) 可否投票

学位論文審査委員会主査の報告にもとづいて審議を行い、学位授与の可否を無記名投票によって議決する。

4. 学位の授与

学位授与日：決定日（研究科教授会）に近い学期末、6月末日、12月末日

例： 5月24日研究科教授会 6月30日

8月24日研究科教授会 9月23日

学位記授与式：3月24日、9月下旬（授与式の日時については別途通知）

補則

この要領に定めのない事項及び要領を変更するときは研究科教授会において定める。

附則

この要領は令和4年4月1日から施行する。

（令和4年3月2日獣医学準備教授会承認）

この要領は令和5年11月1日から施行する。

（令和5年10月11日研究科教授会承認）

この要領は令和8年1月1日から施行する。

（令和8年1月14日研究科教授会承認）